

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構（JANPIA）
第 17 回評議員会 議事録

1. 日 時 2024 年 4 月 22 日（月） 開会 14 時 00 分
閉会 15 時 00 分

2. 場 所 東京都千代田区内幸町 2 丁目 2 番 3 号 日比谷国際ビル 314
JANPIA 事務所内 会議室

※JANPIA 事務所内 会議室を起点に、各出席者の音声や映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとし、出席者が一堂に会するのと同等の相互に十分な議論を行うことができるという環境を確保したうえで実施（ZOOM を利用）

3. 出席者

評議員 川北 秀人 久保田 政一 菅原 晶子 辻 松雄
村上 陽子 角田 久美（藤沢 久美）（議長）
（構成員 9 名中 出席 6 名）

なお、出席した評議員全員が ZOOM を利用して出席した。

理 事 二宮 雅也 岡田 太造

なお、出席した理事全員が ZOOM を利用して出席した。

監 事 土岐 敦司

なお、出席した監事全員が ZOOM を利用して出席した

事務局 鈴木 均 （シニア・プロジェクト・コーディネーター）
大川 昌晴（事務局長）

4. 報告事項

- （1）2024 年度事業計画・収支予算について
- （2）総合評価（2 回目）について
- （3）今後のスケジュール（業務運営全般の状況について）

5. 提出資料

<説明資料>

- ・資料第 1：2024 年度事業計画・収支予算について
- ・資料第 2：総合評価（2 回目）について
- ・資料第 3：今後のスケジュール

6. 議事概要

14時00分開会、定款第21条に基づき藤沢評議員が本会合の議長に選任された。藤沢議長は、出席評議員は現在数9名のうち6名が出席しており、定款第22条に定める決議に必要な出席数を充足していることを確認した。なお、議事録署名人は、定款第25条第2項により、久保田評議員を選出した。

7. 報告事項

- (1) 2024年度事業計画・収支予算について
- (2) 総合評価（2回目）について
- (3) 今後のスケジュール（業務運営全般の状況について）

岡田専務理事より、資料第1に基づき、2024年度事業計画及び収支予算について、内閣府に認可申請を行い、3月26日に認可を得たこと、2024年度事業計画の概要について、説明があった。

続いて、大川事務局長より、添付資料「2024年度事業計画・収支予算のポイント」に基づき、2024年度重点取り組み事項や2024年度収支予算についての説明があった。次に、資料第2に基づき、総合評価について、コンセプトや編集方針についての説明があった。また、今後の総合評価の検討の視点として、制度の認知度向上、担い手の育成、活動の裾野拡大、社会課題解決への効果検証、出口戦略など持続可能性の向上等を定量的な評価や、効果、進展度の可視化に向けた取り組みを通じ、検証から改善の取り組みのPDCAを行っていくこと、議連・審議会からの指摘として、政策評価の視点から、より定量的かつ目指すアウトカムとのつながりを明確にした評価実施とその結果の可視化を強く期待する声が多く、これらも意識した総合評価の在り方も検討していく必要があること等の説明があった。次に、資料第3に基づき、今後のスケジュールについて、定時評議員会を6月25日に行う予定であり、理事の選任についてお諮りすると共に、2023年度収支決算報告、事業報告を行う予定であること等の説明があった。

これに関する質疑は以下の通り

- （川北評議員）最初の5年間は与えられたタスクをどう実現していくかが重要であったが、次の5年間は、わが国でトップ5クラスの助成機関として、今後の助成方針や独自のビジョンなどもう少し大きな絵を描くべきタイミングにきていると感じている。そのために、それらを深く議論する機会の設定を検討いただきたい。

（辻評議員）休眠預金活用事業において、助成だけでなく出資も始まることで、銀行では出資できない分野にも大きな規模で参入できる。相互に協力し合えることは良いことだが、クラウドファンディングアウトを避けるために協力しながら進めていきたい。出資事業で苦労している点についても伺いたい。

（菅原評議員）出資事業について、現段階で見えている課題を伺いたい。世の中に多額の公的及び民間資金があるが、休眠預金の全体的な役割や位置づけを明確にするために議論することは大切である。また、JANPIAの通常活動と新たな出資事業等に加え、能登半島地震の支援事業をバランスよく続けていくた

めに、マネジメント上での課題は生じていないか。総合評価について、改善や成長に繋がるツールとして整理され、非常に役立つツールとしての良い評価結果が得られていると感じる。

(久保田評議員) 能登半島地震等にも迅速に対応しており、適切な運営がなされている。新しい試みである出資事業については、着実に実施していただきたい。休眠預金活用事業の規模がさらに大きくなり、様々な問題が生じる可能性があると思うが、適切に相談しながら進めていただきたい。

(村上評議員) 総合評価は、様々な指摘事項があり、大変充実したものになっていると感じた。休眠預金活用事業の全体像を描くことは、金融の立場だけでなく、労働福祉団体という福祉サービス事業を行う側としても大きな関心を持っている。能登半島地震の対応については、本来は行政が行うべき活動を休眠預金活用事業でどこまで支援するべきか、支援領域の課題はあると感じている。

(藤沢議長) プラットフォームを通じて事業の担い手をタテ・ヨコにつなげる取り組みが、現場レベルでの情報交換を促進し、現場メインになってきた感じがある。また、「独自のビジョンを描く」ことに強く賛同しており、ぜひ議論したい。資金が増えていく時、その資金を再配分するか、運用しながら使っていくのか、あるいは使う目的についても、例えば、災害の初動時に必要な物資や活動に関する現場の知見を言語化する支援を行う等 JANPIA だからできることがあると考える。

(大川事務局長) 出資事業における現段階の課題は、収益性よりも社会的インパクトを重視した事業が対象となるため、特にスタートアップ支援において資金提供者が少ないことである。出資事業を上手く活用したいと考えているため、困難なところを乗り越えていくために、色々な方と意見を交わしながら進めている段階にあるが、関心が高いことは個別相談からも伺える。総合評価についても、そこから対処すべき点が見えてきており、団体の皆様との協働連携で進めてきたものが多い。それらをさらに深掘りしようとなると、将来のスケールアップに向けた運営方針や体制等についてマネジメントの視点から考える必要があり、皆様からご意見をいただきながら考えていきたい。

➤ (藤沢議長) 民間との資金マッチングについて、民間からの資金提供が難しいという課題に対しては、協調融資の考え方も出たように、メザニン型にして一部はデッドに、一部はエクイティにするというような考え方もあるかもしれない。

(辻評議員) 民間金融機関だけではなく、商工中金やΣビジネスを始めている日本郵政も取り組みを進めている。社会的インパクトを大事にすることはSDGsに関心の高い若い世代にも非常に親和性があると思う。会計情報開示もリスクだけでなくインパクトも開示する動きがあることが、JANPIAにも有効に働くのではないかなと思う。

(菅原評議員) 事業の規模が徐々に大きくなっていくと、事務局を強化しても従来のマネジメントでは難しい面がある。事業の拡大と共に、それを支えるマネジメントの強化や、他団体との連携等が課題として出てくるのではないかな。

(久保田評議員) 休眠預金活用事業は、これまで大きな問題もなく行われてきた。しかし、そのインパクトも非常に大きくなっており、様々な面で注意しなければならないことが増えてくる。

(村上評議員) 組織での在籍期間や業種が異なる職員が多くいる職場での工夫として、各人の専門性を高めつつ、ローテーション人事を行うことや、役割分担した際の業務の擦り合わせの機会を大切にしていることである。

(川北評議員) 今後さらに助成規模が大きくなるということは、JANPIA の規模が大きくなるだけでなく資金分配団体が受ける資金規模も大きくなるということである。権限の再配置という観点からも最適な規模感、立ち位置について考えたい。総合評価で示された課題は宝の山である。現在の NPO の課題は人をどう支えるかであるが、5 年後 10 年後、更に深刻化すると考えたほうが良い。JANPIA は休眠預金の最適活用について、市民セクターにおける役割や全体像を考慮する必要がある。活動する人を支援する方法や役割を統合する方法、例えば、AI 等の技術を活用した人的時間の最適活用に対する助言機能や社会的機能設計に係る役割を果たすべきは JANPIA であり、JANPIA 自身と休眠預金等活用制度の戦略設計をしっかりと考えていく必要があると感じた。

(藤沢議長) JANPIA のみならず休眠預金そのものまで含め考えていくために、開催頻度を上げるという提案もあったが、是非事務局でご検討いただきたい。

以上をもって、ZOOM を利用した第 17 回評議員会は、終始異状なく本日の議事をすべて終了したので、議長は出席の評議員、理事及び監事にその協力を感謝し、15 時 00 分、閉会を宣言した。

上記の議事の経過及びその結果を確認するために、議事録署名人は、次に記名押印する。

2024 年 5 月 10 日

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構

議事録署名人 (議長) 藤 沢 久 美 ㊞

議事録署名人 (評議員) 久保田 政 一 ㊞

議事録作成者 大 川 昌 晴 ㊞

以 上